

小学1・2年生部門

たくさんの良い演奏を聞いた後、なぜその中でもとりわけいくつかの演奏が私の興味を引いたのかということについてよく自問するのですが、音楽はある種のコミュニケーションだという結論にいつも至ります。それぞれのモチーフやフレーズがそれぞれの意味をもっているのです。才能ある生徒さんにとってこれは当たり前のことです。ピアノを弾きながら、抑揚や色を探して、まさに音楽で遊ぶように弾きます。その演奏は自然で滑らかで、彼らが楽しんでいる様子は誰が見てもわかります。しかし、このことを理解するのに時間がかかってしまう生徒さんには、先生方が生徒さんの感性を伸ばしてあげ、この魔法のような音楽の世界に気づくよう手助けしてあげるとよいでしょう。楽譜（特にリズム）を読み込むことや、安定したテンポ、拍を感じることはもちろん基本です。しかし音楽的な想像力なしでは、色彩に富んだ生き生きした演奏はできません。では、音楽的な想像力を伸ばすにはどうすればよいのでしょうか？まず、様々な気持ちや状況を比べてみましょう。例えば、短調＝悲しい、長調＝楽しい、長調で同じフレーズが繰り返されたのちに、短調になる＝太陽の光と影、など。これらはお子さんでも知っている感情です。また、ピアノを弾かずにメロディーを歌ってみるのも、自然な呼吸（フレーズング）を見つけるためのよい方法です。これらは、インスピレーションを得るためのいくつかの方法にすぎません。生徒さんと先生が音楽のすばらしさを楽しみながら探し求め、今後ますますよい演奏をされることを願っております。

今年はコロナ禍にも関わらず、多くの素晴らしい演奏をお聴きすることができ、大変嬉しく思いました。ご本人は勿論のこと、ご家族や先生方、周りの皆様のご協力に心から敬意を表したいと思えます。1・2年生の課題曲は、どれも詩のような美しさを持っていますが、それぞれの曲は固有の魅力を持ち、求められる技術も曲によって異なります。それらをよく理解し、技術を磨き、十分な表現が出来るかどうかが良い演奏をするためのポイントになると思います。今回はオンラインであっても一人一人の演奏に、心と技が込められていました。今、取り組まれていることは、今後、必ずや花開くことでしょう。これからも練習を続け、素晴らしいピアニストになられますことを祈っています。

全体的に、音楽的でレベルの高い演奏が多かったです。長い音の「のび」や「響き」を聴いて、透明感のある音色で伸びやかに演奏しているのですが、大事なリズム（ポロネーズやマズルカ、ワルツ）が曖昧だったり、テンポが不安定になったり、細かい音の粒がはっきり聴こえてこなかったり・・・と、少し残念な演奏もありました。フレーズ間のブレスをしっかりと取り、たっぷり歌うところも必要ですね！

コロナ禍の中、みなさん音楽に真摯に向き合い、音楽を感じて演奏されていました。どの場所で演奏するときでも、その空間にある響きをよく聞いて、音量、左右のバランスなどにも気を配るともっと良くなると思えました。全体的に、素晴らしい演奏にたくさん出会いました。

今回1・2年生部門を担当しました。7、8才の方がどなたもていねいにしっかり演奏されていて感心致しました。弾けるためによく動く指を持っていないと速いパッセージは弾けません。しかし皆さん見事な指を育てていました。流れるように指が答えていました。すばらしい皆さんでした。

- ・音楽的な演奏が多く、大変嬉しく聴かせて頂きました。ご自分の音楽、歌を感じられている方が多数いらっしゃり、素晴らしいです。
- ・今回の課題である舞曲の拍感、リズム感を感じることで、表現することが出来ると、よりよい演奏となる方がたくさんいらっしゃるように思います。特に左手の表現まで辿り着くことができると、より立体的で生き生きとした演奏になります。

- ・フレーズの方向性に沿って、体をもっとうまく使えると良いと感じる方が沢山いらっしゃいました。背中や腕が突っ張ってしまうと、フレーズが一直線になり、音も硬くなってしまいます。
- ・殆どの方が足台やアシストペダルを使っていらっしゃると思いますが、踏み方にもう少し気を付けて頂きたいと感じる方が多数いらっしゃいました。足全体を使ったり、かかとごと踏んでしまうと、ハーモニーごとの踏みかえ、調整がしにくいだけでなく、将来足台を外した時に悪い癖が残ってしまいます。
- ・この先皆さんがより大きな作品に挑戦していかれるのを、非常に楽しみにしております。

メロディーラインはしっかりきれいにつくっていても、伴奏の動き、響きへの意識が薄い演奏が多かったように思いました。伴奏の和声進行、音色あって感情表現が成り立ちます。もちろん、メロディと伴奏のバランスも大切ですが、伴奏だけで音楽を感じる練習をしてみると良いと思いました。コロナ禍にあり、何もかもが中止になったり、また、気持ちが臆病になりがちな時勢ですが、動画審査になってしまったにもかかわらず、日々の練習を惜しまず、チャレンジした皆さんに敬意を表します。これからも是非、ピアノを支えとし、友とし、前向きに歩んで欲しいと願います。